

工大広報

震災特別号

2011年5月31日発行



勇気・元気・前進

表紙写真：民家の泥だしのボランティアをする本学学生（4月14日午後、名取市閑上地区）



TOHOKU INSTITUTE
OF TECHNOLOGY

創造から統合へ—仙台からの発進
東北工業大学

「今大事にすべきこと」

学長 沢田 康次
さわだ やすじ



3月11日以後、諸君はどんなに大変な日々を過ごしてきたことでしょう。5月9日のガイダンスの日が教員一同にとってもどんなに待ちどうしかったことでしょう。そして諸君に無事会えることができてどんなにうれしかったことでしょう。これからこの災害を乗り越えるためにしっかり勉強しましょう。

諸君にお願いしたいことは、時を移さず今のうちに、あの日そしてその後何を感じ、どんな行動をしたか、またしようと思っているか、メモを作り、大切にしまっておいてください。記憶は徐々に薄れます。東日本大震災は本当に大変な出来事でした。ですからこそ社会に出るとき、あるいはこれから先、一生にわたりとても重要になります。今大事にすべきことはこのことです。

「東日本大震災」と大学の対応

3月

11日(金)14時46分

- ・東北地方太平洋沖地震が発生
- ・学生100人と近隣地域住民200人の計約300人が八木山キャンパス1号館に避難(仮避難所として施設提供)

12日(土)

- ・簡易給水タンク設置、地域へ給水開始
- ・一番町ロビー休館

14日(月)

- ・臨時ホームページ(HP)開設
- ・キャンパス状況、学生の安否確認開始(臨時HP)
- ・卒業式中止を決定
- ・緊急災害対策会議
- ・八木山キャンパス1、4号館通電

16日(水)

- ・学内メール復旧
- ・震災対策本部(本部長・藤井法人局長)設置
- ・八木山キャンパス3、5、6、7号館通電

17日(木)

- ・沢田学長がメッセージ(臨時HP)
- ・平成23年度入学手続き案内(臨時HP)
- ・八木山キャンパス1号館仮避難所閉鎖

18日(金)

- ・入学式中止決定
- ・前期授業開始5月9日決定
- ・卒業証明書の配布開始
- ・学生の災害ボランティア開始
- ・部局長幹事会(岩崎理事長出席)

- ・安否確認95%

22日(火)

- ・学内被災状況調査
- ・10号館使用開始

23日(水)

- ・安全確認者リスト(臨時HP)
- ・新入生の安否確認リスト(臨時HP)
- ・部局長会議

24日(木)

- ・教授会
- ・在学生・入学予定者の住所変更確認(臨時HP)

25日(金)

- ・平成23年度前期重要日程(臨時HP)

28日(月)

- ・安全確認者リスト更新(臨時HP)
- ・八木山キャンパス上水道復旧

30日(水)

- ・評議員会・理事会
- ・被災学生対象の奨学金案内(臨時HP)

31日(木)

- ・在学生・新入学生に経済支援策(臨時HP)
- ・給水終了。対策本部解散

4月

1日(金)

- ・職員服装を通常勤務体制に

4日(月)

- ・臨時HPから通常工大HP復帰

5日(火)

- ・織原彦之丞名誉教授講演会「福島原発で起きていること～放射能と健康について～」
- ・臨時教授会

7日(木)

- ・新学期開始までの工学部、ライフデザイン学部の教育プログラム(HP)

12日(火)

- ・学位記など送付

14日(木)

- ・教育振興助成金制度案内(HP)

15日(金)

- ・課外活動の再開(HP)

21(木)

- ・常勤理事会

28日(木)

- ・神山眞前教授講演会「2011年東北地方太平洋沖地震M9.0観測データの意味すること～将来に向けて～」

29日(金)

- ・一番町ロビー再開

5月

9日(月)

- ・前期オリエンテーション

10日(火)

- ・前期授業開始

大学の避難状況や安否確認、その後の活動

【地震直後】

突然の強烈な揺れ、「グラツツ、グラツツ」。3月11日午後2時46分。

「中庭に避難して」の大きな声。

教室では机や椅子が揺れと一緒に「ガラガラ」と動きまわり、事務室の机上のパソコンや書類は飛び、書類で重たいキャビネットやコピー機が「ゴン、ガタン」と鈍い音をたてぶつかっていました。とても手で押さえるなんて無理な状態です。自分の安全を確保するのがやっとでした。学内にいた学生、教職員は部屋から廊下へ、揺れの間、動けなくなる場面も。そしてなんとか無事に避難し、中庭へ集まりました。

その後、恐怖と寒さに耐えながら揺れが収まるのを待ちましたが、これだけの大きな地震にも関わらず、避難時の転倒、落下物によるけが人がいなかつたのは本当に幸いでした。

【約400人が学内に】

夜、1号館は近隣住民200人、学生100人、計約300人の避難者でいっぱいでした。一般のみなさんは近隣マンション住人の方がほとんど。大きな余震が続き、「大学の建物は安心」と避難したようです。

学生は帰宅の足が確保できない、1人住まいより大学にいる方が心強い、と学内に留まりました。夜には長町キャンパスの学生をバスで迎えに行き、さらに東北工大高校の生徒も八木山キャンパスに避難してもらいました。不測の事態に備え、大学の男性職員ほぼ全員がその夜は泊まり込み、八木山キャンパスで約400人が不安な一夜を明かしました。

【仮避難所に】

大学は指定避難所ではありません。しかし、短期間ではあったものの「仮避難所」として、近隣住民や学生のみなさんに、安全で安心して過ごせる場所を提供することができました。授業再開の準備のため、避難スペースは17日には閉じざるを得ませんでしたが、地域からの信頼を感じる機会もありました。

「大学には水や食べ物があり、暖もとれ、ありがたかった。そばに若い人がいるので安心して過ごせた」。仮避難所開設の間、体調を崩すことなく無事過ごしたようです。

【ボランティア】

地震の翌12日、簡易給水タンク(1t)が学内に運び込まれました。学内避難者に水が必要との要請に仙台市が設置、この日から大学は、給水活動を始めます。テレビ放送の給水所情報に「太

白区 東北工大」と表示され、大学の無事といち早いボランティア活動に励まされた、との声もいただきました。

水道が復旧する3月末まで毎日、学生ボランティアや職員が給水活動を続けました。高齢の方には、学生が自宅まで水を運ぶなど親身な活動に地域町内会から心からの感謝の言葉が寄せられています。

また、学生のみなさんは学科や個人、部活動単位など、いろいろな形でのボランティアに取り組んでいます。表紙写真は津波被害の名取市閑上地区で、硬式野球部の学生が民家の泥だし作業をしているところです。実家に戻った学生の中には、地元で仲間を集めてボランティアグループを結成、街頭募金活動の義援金を宮城県に寄付した情報通信工学科の阿部貴成さん(由利本庄市出身)のような例もありました。

【学生・教職員の安否確認】

東日本大震災では学部学生5人と入学予定者1人が亡くなられました。将来のある若者が志半ばで犠牲となり、残念至極の極みです。ご家族の心中をお察しするとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

電話がつながらない状況下でしたが、安否確認担当の職員らが、一人一人連絡を取り、全学の学生・教職員の安全を確認しました。沿岸地域出身学生の実家や自宅が被害を受けたケースも多く、これから大学はじめ全学のみなさんの支えが必要です。教職員は全員無事でした。

【施設被害】

八木山キャンパス10号館でダンパーが破損しました。耐震強度はダンパーなしでも十分な構造設計で、補助的に取り付けたものです。5号館は古い建物ですが、プレース、ダンパーなど補強のおかげで、大きな被害は免れました。

長町キャンパスはテニスコートや野球場などに一部地割れがみられました。

教室、研究室の被害のほか、揺れが大きかった1号館4階の法人、大学役員の部屋のロッカー、キャビネットの備品は原形をとどめないほど壊れ、図書館は蔵書の6割が書籍棚から落下し、復旧まで時間がかかりました。

【学年暦】

卒業式、入学式を中止。5月9日オリエンテーション、翌10日から授業を開始しました。また、八木山キャンパスでは 東北工業大学高校特進科の生徒が、4月から9号館での授業をしています。高校施設の被害のため、当面大学の教室を借りての授業です。

▶ 地震直後、中庭に避難した教職員学生（11日午後3時40分ごろ）

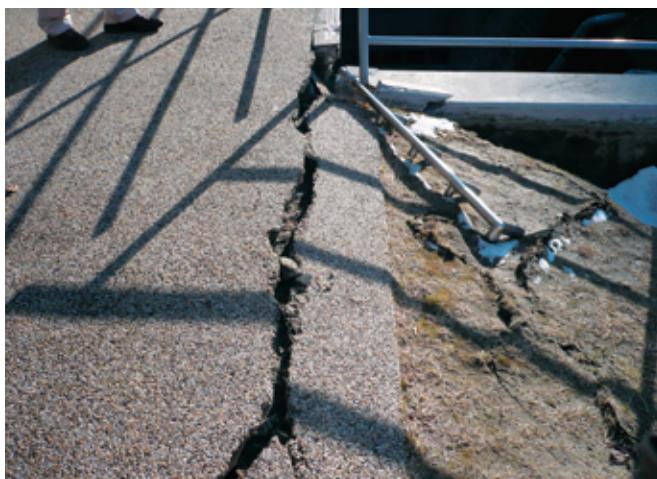


大学施設などの被害

▶ 破損しながらも役目を果たした10号館の制震ダンパー（11日）



▶ 5号館前の舗装には大きな亀裂（12日）



▶ 図書館は書棚から書籍が落下、足の踏み場もない☆（15日）



▶ 5号館入り口のコンクリートには大きな割れ（12日）



(注)・カッコ内の日付は原則「3月」

・☆印の写真撮影は「ワークショップ;img@tohtech
太田 綾(クリエイティブデザイン学科2年)」



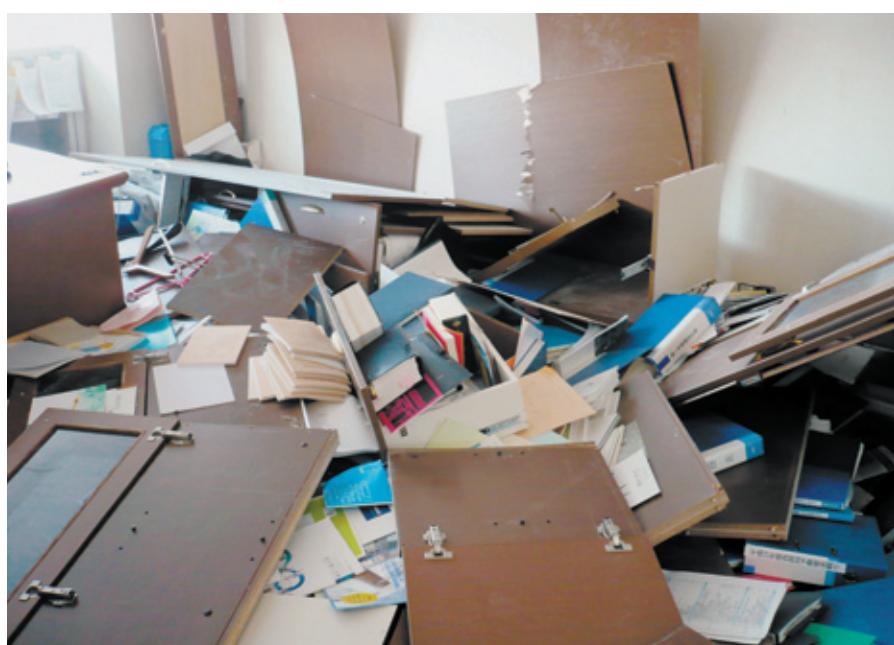
▶机やいすがひっくり返った9号館の教室（12日）



▶金属製書棚が机上に転倒、資料が散乱する研究室（12日）



▶1号館4階のロッカー、本箱は原型が分からぬ（12日）



▶ 地域への給水活動には学生、職員がボランティアで協力（4日）



▶ 自家発電の薄明かり、1号館で不安な夜
（11日午後9時過ぎ）



▶ わずかな情報から津波被害など大震災の全容を知る☆（15日）



◀ 食堂の炊き出しに感謝しながら力をもつ☆（15日）

◀ 1号館トーテックラウンジは臨時の避難所に☆（15日）

再起へ向けて

▶ 学生一人一人の安否を本人、友人、家族に確認☆(15日)



▶ 中止の学位記授与式に代え卒業生に卒業証明書(18日)



▶ 授業開始延期。その間の学生の就職活動をサポートする相談コーナー開設(4月6日)



▶ 織原彦之丞名誉教授が放射線の影響や防御策について講演(4月5日)



◀ OB、後援会や大学に関わる企業から支援物資(16日)



◀ 壊れた学内備品。キャビネットやパソコンなど(17日)



◀ 大学前の道路はガソリンの給油を待つ車で渋滞(18日)



◀ 本学独自観測網での地震分析、将来的の発生可能性など神山眞前教授が講演(4月28日)

東日本大震災に伴う学生への主な経済支援のお知らせ

(平成23年5月現在)

(注) 募集期間、対象などが限定されているものがあります。詳細は学生課または長町キャンパス事務室へ。このほかにも随時募集の教育ローンなどの案内がありますのでお問い合わせください。
 (問い合わせ先) 八木山キャンパス 学生課 022-305-3122
 長町キャンパス 事務室 022-304-5501

おおよそ下記の内容をまとめています。

①経済支援団体・組織 ②支援内容 ③要件 ④貸与・給付額

東北工業大学

学費減免

<全額免除> 家屋全壊や流出及び保護者(家計支持者)が死亡。
 <半額免除> 家屋半壊・床上浸水。
 保護者(家計支持者)が福島原発事故に伴う避難区域などに家屋を所有し、居住。
 新入学生で全・半額免除該当者は上記免除のほか入学金を免除。
 ※借家の場合は対象外。

教育振興助成制度

・ 学費納入のため保護者が金融機関などの教育ローン利用し、経済的に修学困難と認められる者。
 【助成金額】その年度の学費利息相当額を1年間給付。

(公)交通遺児育英会

貸与奨学金(無利子)

・ 保護者などが道路での交通事故で死亡、もしくは著しい後遺障害で働けないため、教育費に困っている家庭の子女。
 ・ 東日本大震災で、保護者が車両に乗っていて津波や地震による路外逸脱・自損・落石などで死亡、もしくは著しい後遺障害で働けない場合。保護者が車両に乗って外出し、行方不明の場合には事情により採用される。

【貸与月額】学部生:4万円~6万円 大学院生:5万円~10万円

【入学一時金(学部1年生のみ)】40万円~80万円

(財)日本国際教育支援協会

学生緊急貸付(災害特別援助・無利子貸付)

・ 自宅や宿舎が直接罹災。
 ・ 実家が被害にあい仕送りが困難。
 ・ その他、所属する大学長などが上記災害に起因する経済的困難にあると認める者。

【貸付金額】限度額10万円

あしなが育英会

特別一時金給付

・ 保護者が死亡あるいは行方不明または著しい後遺障害を負った人の子ども。

【給付金額】40万円

貸与奨学金(無利子)

・ 保護者が死亡あるいは行方不明または著しい後遺障害を負った人の子ども。

【貸与月額】学部生:4万円~5万円 大学院生:8万円

日本学生支援機構

貸与奨学金(無利子、有利子)

- 災害救助法適用地域または適用を受けない近隣地域で同等災害に遭った世帯の学生。
- 上記地域に勤務し、勤務先が被災した世帯の学生。
- 上記に関わらず、主たる家計支持者の収入が大きく減少または支出が大きく増大した場合。

【貸与月額】※貸与希望金額選択

<緊急採用>(第一種奨学金・無利子)

学部生:3万円/5万4千円/6万4千円
 大学院生(M):5万円/8万8千円
 大学院生(D):8万円/12万2千円

<応急採用>(第二種奨学金・有利子)

学部生:3万円~12万円
 大学院生(M/D):5万円~15万円

厚生労働省

無利子貸付

- 被災した全世帯に最大10万円を貸付。条件により最大20万円まで貸付可。

福島県

貸与奨学金(無利子)

- 福島県出身の学生で、経済的理由により就学困難で、修学のため同種資金を他から受けていない者。

【貸与月額】4万円

八戸市

貸与奨学金(無利子)

- 学部学生で保護者が八戸市内に現在まで引き続き2年以上居住し、学業優秀で学費の支弁が困難な者。所得に関わらず、東北地方太平洋沖地震により、住家が半壊以上の被害を受けた世帯も含む。他の奨学金との併用可。

【貸与月額】4万円

■ 学費納入、延納などの期日

前期学費納入期日: 平成23年 6月27日(月)
 学費延納許可期限: 平成23年10月31日(月)
 前期学費分割日程: (第1回)平成23年6月27日(月)
 (第2回)平成23年8月31日(水)
 (問い合わせ先) 八木山キャンパス 会計課 022-305-3359